令和７年９月１日
千代田区立お茶の水幼稚園
園長　伊藤栄司

園だより

9月（長月）号

http://www.schoolweb.ne.jp/chiyoda/ochanomizu-k

社会的手がかり

園長　伊藤　栄司

41日間に渡る長い夏休みが終わり、幼稚園に元気な声が戻ってきました。ご家庭や地域での様々な体験を通して一回りも二回りもたくましく育った子どもたちの姿が新学期のスタートを教えてくれます。夏休み中にたくさんの体験を通して手にした力を2学期の生活や行事において発揮してくれることを期待しています。

始業式では「自分から進んで挨拶をすること」「自分でできることは進んで行うこと」の2点を目標として伝えました。2学期は運動会やふれあいスポーツデー、学芸会、子ども劇場等、一人一人の頑張りとともに友達と力を合わせて乗り越えていく行事がたくさんあります。何事にも進んで取り組む主体的な力を育てていきたいと考えています。

コミュニケーションの合図

私は小学校の校長でもありますので、3歳から12歳の子どもに話をする機会に恵まれています。不思議なことに、年齢はわからなくても顔を見るとその子どもに合ったスピードと内容、表情で話をすることができます。これは、長年の教員生活で身についた力の一つではないかと思いますが、中学校の先生方に話をすると大変驚かれます。

特に、1年生から6年生までが一堂に集まった朝会時はどんな話をしているのか疑問に思われるようです。私の場合、基本的には3・4年生が理解できる話し方、言葉選び、スピードを意識して話をします。1・2年生には難しいかなと思うような時は心の中で「わかりにくくてごめんなさい」と謝りながら、1・2年生の担任のフォローを期待します。

幼稚園では、4歳児に合わせた話をするようにしています。小学校に比べると話すスピードや内容が格段に優しくなります。ジェスチャーが増えたり、パペットを使って注意を引いたりする工夫も欠かせません。また、話をする前にじっと子どもの目を見つめしばらく沈黙の時間を作ることも大切にしています。

子どもたちに何かの合図を送り、この人は何か大切なことを教えてくれるのではと思わせるコミュニケーションの合図を社会的手がかりと言います。

社会的手がかり

子どもたちが大人から何かを学ぼうとするとき、何かしらの「手がかり」が重要な役割を示します。例えば、アイコンタクトやゆっくり話す、名前の呼びかけなどが含まれます。これらの手がかりは、大人が子どもに対して「これから何かを教える」とコミュニケーションの意図を示す合図になります。一方で子どもたちも社会的手がかりに高い感受性をもち大人の行動や発言に注意をむけます。そして、相手が自分に大切な情報を伝えてくれようとしていると解釈し、学習の構えができるのです。※

子どもたちと話をするとき、何かを教えてくれるのではないかと目をキラキラさせながら期待に満ちた表情を見せてくれるのには、こんな理由があったのです。

信頼できる情報源

また、子どもは慣れ親しんだ人が発する情報をより信頼する傾向があります。ものの名前や使い方を学ぶとき、知らない先生よりも自分の担任の先生からの情報を信じます。時々、保育室に入り私が何か教えようとしても、担任の先生に聞きなおしたり、確かめたりする様子が見られるのは信頼度が低いからなのだと思います。

しかし、ひまわり組の子どもたちは私の顔を見ると「今日の忍法は？」と毎日、聞いてきます。「園長は忍法を教えてくれる人」という意識があり、忍法に関しては高い信頼があるようです。（忍法と言っても簡単な体操程度の動きですが、ちゅうりっぷ組の時から楽しそうに聞いてくれます。）また、おもちゃや遊具の使い方に関しては、大人よりも同じクラスのお友達に聞く傾向があります。例えば、ゲームの進め方など同年代の子どもの方が詳しいと判断すると、そちらの方を頼りにするようです。

子どもたちは、学ぶ内容に応じて柔軟に誰から情報を受け取ることが正しいのかを判断し、選択していると言えます。赤ちゃんの頃から、知りたい、学びたいと意欲に溢れている子どもたちが、主体的に学べるよう環境を整えるのが幼稚園です。子どもたちが興味をもって何ごとにも進んで取り組めるように環境を整えていきます。

※「赤ちゃんは世界をどう学んでいくのか」人に備わる驚くべき能力　奥村優子著　光文社新書